

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100%）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80%以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60%程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60%程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>9. 社会連携・社会貢献</b>  <b>【計画48】（企画部）</b>                      医療・健康・保健面において地域を指向して教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>                      社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p> <p><b>「評価指標」</b>                      ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p>	Ⅲ	<p>・令和6年度も昨年度に引き続き、学長戦略本部において、「地方公共団体、企業、関連病院等との連携・協力による地域の課題解決に向けた各種取組状況」について各部署に対し調査を行った結果、引き続き、企業、行政機関、消防団、医師会、病院、看護協会、学校、財団、自治会、社会福祉協議会、地域実行委員会、防災協議会、プロスポーツチームなどとの多岐にわたる連携事業を各部署単位あるいは教員個人単位で連携していること、また特定の教員グループ・教員個人単位で多数の連携事業を行っており負担が増大していること、事業経費については、例えば「新宿区役所からの性感染症普及啓発アウトリーチ型支援の委託事業」では所要の経費を確保できているが、連携先からの事業支援は少なく、大学や教員の持ち出しが多い等の課題が確認できた。</p> <p>・社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制としては、令和5年度において、学長戦略本部に「研究力強化会議」を設置したところであるが、少子化の影響により益々学生確保が難しい状況の中では、学内予算に頼らない地域貢献活動が実施できるようにするために、引き続き「研究力強化会議」での検討を行い地域貢献活動を推進していく必要がある。</p>	<p><b>【年度計画48】</b>                      社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p> <p><b>「評価指標」</b>                      ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p>	Ⅳ	<p>・令和7年度に受審した認証評価結果として、「建学の精神及び「東京医療保健大学ビジョン」に掲げた「医療・健康・保健分野での社会貢献と地域連携の強化」に向け、「社会連携・協力に関する基本方針」を策定している。また、「第3期中期目標・計画」において、社会連携・社会貢献の活動ごとに具体的かつ測定可能な評価指標を設定している。」また、「地域医療機関、自治体及び企業との歴史的背景を生かした多様な協働が年間多数の事業として定着しており、自治体共催の市民公開講座、健康相談、災害訓練及び食育イベントを継続して実施している。例えば、国立病院機構キャンパスでは、学生が地域の防災リーダーとして活動し、所在する目黒区や地元の消防団から高い評価を得ている。また、各学部が置かれた地域においてキャンパスごとに、公開講座を中心とする行政機関等と協働した取り組みを定期的に行っている。産学連携では、「学長戦略本部」が協定に基づき、教育系企業と教材開発や学習効果実証、ICT教材の共同開発を推進している。以上のように社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施し、教育研究成果の社会への還元を多層的に行っている。」と評価されたところである。</p> <p>・社会連携・社会貢献活動の中核を担う総合研究所は、研究インテグリティの確保や知的財産権管理なども担いつつ、更なる外部資金の獲得にも調整する組織として活動を続けているが、本学は今後も外部資金の獲得を目指すことは不可欠であり、資金提供者のニーズに沿ったプロジェクト編成や活動展開が求められることから、総合研究所を「要綱」から「規程」に格上げし、より明確な位置づけのもとに活動の活性化を図ることとした。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画49】(企画部・各事務部)</b> 大学が所在する地方自治体との連携を強化し、共催・後援による公開講座等や各種事業を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数</p>	<p>Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座の実施については、令和6年7月29日に開催した「全学公開講座委員会」において、昨年度に引き続き、大学のPRとして学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体的に対応すること等を定めた令和5年度公開講座実施方針について承認され、それぞれのキャンパスにおいて実施された。</li> <li>・「産後ケア事業」の推進については、【計画66】を参照のこと。</li> <li>・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種事業を推進した。</li> <li>・なお、現在の公開講座は無償で開催しているが、例えば五反田キャンパスで開催する公開講座は、品川区との共催事業とすることで区からの補助金を確保し実施していることから、今後は学内予算に頼らない持続可能な公開講座が実施できるために、その在り方を検討していく必要がある。</li> </ul> <p>Ⅲ (五反田事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保健学部看護学科と品川消防署消防団は昨年に引き続き、令和6年11月6日に入団辞令交付式を本学にて実施した。辞令交付式には学生団員22名、品川消防団長等、亀山学長が参加した。学生団員は昨年度の2倍となった。</li> <li>・医療保健学部看護学科地域健康づくり研究教育センターは学生のボランティア活動に力を入れており、令和6年10月13日に品川区の認知症啓蒙活動の一環として開催された「オレンジフェスタ2024」に多くの学生が参加し、地域住民と協働し積極的な活動を行った。</li> <li>・その他学生が参加した地域活動は以下のとおりである；令和6年8月25日あいおい夏祭り（五反田キャンパス周辺町内会主催）、10月12日せせらぎ祭り（品川区老人ホーム）、10月27日春光まつり（品川区老人ホーム）、11月3日ファーム・エイド東五反田</li> </ul>	<p><b>【年度計画49】</b> 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数</p>	<p>Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座の実施については、令和7年7月14日に開催した「全学公開講座委員会」において、昨年度に引き続き、大学のPRとして学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、教員の研究分野を参考にした講師の選任などの工夫を行い、それぞれのキャンパスにおいて実施された。</li> <li>・「産後ケア事業」の推進については、【計画66】を参照のこと。</li> <li>・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種事業を推進した。</li> </ul> <p>Ⅳ (五反田事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保健学部看護学科と品川消防団は昨年に引き続き、令和7年11月9日に入団事例式を本学にて実施した、学生団員は昨年度と同様の22名となった。</li> <li>・医療保健学部看護学科地域健康づくり研究・教育センターを中心にボランティア活動に力を入れており、締結協定を結んでいる品川区と、保健事業を共に行い、社会貢献として学生・教員が多くの事業に参加した。詳細は【計画56-1】を参照。</li> </ul>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
	<p>IV (東が丘看護学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月13日、「目黒区民まつり」に学生・教員ボランティア15名が参加、舞台イベント運営の裏方として協力した。</li> <li>・10月27日、目黒区子育て支援課主催「第14回めぐろ子育て交流ひろば0123」にて教員3名による救急救命講座、乳幼児の「心と体の発達」に関する講座を実施した。来場者は389名(子供含む)</li> <li>・11月23日、目黒区教育委員会連携講座「放射線を正しく怖がる」を教員1名、院生2名にて実施、区民を中心に34名に聴講いただいた。</li> </ul> <p>また、教員2名が各々目黒区の生涯学習推進協議会メンバー、自殺対策推進会議会長に加え、精神保健医療福祉推進協議会委員として活動、また公民連携プラットフォームに参加し、目黒区との交流を強化した。その他、適時、目黒区主催イベントに対する告知協力をしている。</p> <p>III (立川事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立川市との共催による高齢者の健康維持やメンタルケアなど立川市の健康づくりに資する市民公開講座を毎年開催し、11月開催の「脳」をテーマにした市民公開講座は、市民参加者91名、教員5名・職員3名・学生3名の参加により、市民のニーズに合致し満足度が高く有意義された講座を開催した。</li> <li>・地域の声を警察業務に反映するための立川警察署協議会に参画し、大規模災害時や地域の安全に関する問題について、立川看護学部が地域・警察と協働して対応することに向けた取り組みを行っている。</li> <li>・震災発生後に医療救護に関する支援を行う立川看護学部学生で構成する立川市消防団機能別分団活動や立川地域の住民がお互いを思いやり、支え合い、安心して暮らすことができる街づくりに資する活動を行う立川市日赤奉仕団において、学生の参加、教職員による活動支援を行うなど学生と教職員の一体的、機動的に連携して取り組みを行っている。</li> </ul> <p>III (和歌山事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山市と共催し、医愛祭と同日の11月2日(土)雄湊キャンパスにおいて「未来のために今知ろう!男性更年期障害」と題し、公開講座を実施した。本学部教授の講演や和歌山市保健所職員が和歌山市の健康課題などの説明を行い、市民27名に参加いただき、男性更年期障害の概要、生活習慣の大切さ等が伝えられた。</li> <li>・和歌山市が主催する学生支援プロジェクトin市高に参加(教職員3名)、就職・進学ワークショップを出店、ブースにおいて看護演習体験等を行い、市立和歌山高校の高校生(30名)に対し、情報提供を行った。</li> </ul>		<p>IV (東が丘看護学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月12日、「目黒区民まつり」に学生・教員ボランティア24名が参加、舞台イベント運営の裏方として協力し、運営主体より高い評価を受けた。</li> <li>・11月30日、目黒区子育て支援課主催「第15回めぐろ子育て交流ひろば0123」にて教員3名、及びボランティア学生4名による救急救命講座、「のど詰まっちゃった」、「もしもの時の応急処置」の説明や実演に積極的に取り組んだ。昨年度初参加した本学の企画を目的にイベントに参加された方も多かったとのことであり好評であった。イベント参加者総数は親子約350名。</li> <li>・12月6日、目黒区教育委員会連携講座「お酒・飲酒について正しく理解しよう」を教員2名にて実施、区民を中心に40名に聴講いただいた。</li> </ul> <p>また、教員2名の目黒区の生涯学習推進協議会メンバー、自殺対策推進会議会長に加え、精神保健医療福祉推進協議会委員としての活動を継続している。その他、適時、目黒区主催イベントに対する告知協力をしている。</p> <p>目黒消防団活動も団員数175名にて継続しており、今年度は協力事業所として認定された。</p> <p>III (立川事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座を11月に実施した。今年は子どもの虐待予防をテーマに実施した。参加者16名、教員3名、学生2名であった。満足度が高く、人数が少なかったため、参加者同士の交流もでき、内容は有意義なものであった。参加者が伸びなかった要因として、11月の開催であり、子ども虐待防止月間であり、同類のプログラムの開催が散見された。さらに学校行事と重なったこと、インフルエンザの流行時期となり、学級閉鎖等も近隣で多く、子育て世帯の申し込み、キャンセルがあった。そのため、時期の検討が必要である。</li> <li>・前年度同様立川警察署協議会に参画し、大規模災害時や地域の安全に関する問題について、立川看護学部が地域・警察と協働して対応することに向けた取り組みを行っている。また引き続き立川看護学部学生で構成する立川市消防団機能別分団活動や立川地域の住民がお互いを思いやり、支え合い、安心して暮らすことができる街づくりに資する活動を行う立川市日赤奉仕団において、学生の参加、教職員による活動支援を行うなど学生と教職員の一体的、機動的に連携して取り組みを行っている。</li> </ul> <p>IV (和歌山事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山市と共催し、医愛祭と同日の10月25日(土)に、「看護って何を学んで、何をやるの?—地域社会のこれからの看護に関する一考察—」を開催した。</li> </ul> <p>看護の学びの特徴や実践の多様性、そして地域社会における看護の役割について、具体的な教育・臨床の場面を交えながら紹介した。市民29人が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山市中消防署と合同で、集団救急事案における応急救護所での活動について理解を深め、負傷者への適切な救急処置と迅速な医療機関への搬送を実施できるようにすることを目的とした訓練を実施した。34名の学生が参加した。</li> </ul>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画50】(企画部・各事務部)</b> 保健医療関係機関等との連携協力により、医療現場の今日的な課題解決等を図るため、各種連携事業等を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況</p>	<p>Ⅲ (東が丘事務部) ・国立研究開発法人国立成育医療研究センターとの人事交流では臨床教授4名、特任教授1名が就任、非常勤講師とともに授業を担当いただいている。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延300名強が利用するなど協働事業は進展・拡大中である。また、今年度は東が丘で実習指導者講習会を実施、国立病院機構病院や国立研究開発法人傘下の病院から多数参加いただいている。成育医療研究センターからも副看護師長等3名に参加いただき、最終発表会には看護師長にも出席いただくなど、更なる関係強化に努めた。 ・国立病院機構とも定期的な会合を持ち、密な連携を継続している。</p> <p>Ⅲ (立川事務部) ・国立病院機構災害医療センターとの緊密な連携のもと、災害訓練協力や連携WOCケア外来(ストーマ外来)の運営を行っている。 ・災害医療センターをはじめ多くの実習病院などと、より幅広い連携を推進する看護学実習連携会議を開催した。 ・国家公務員共済組合連合会立川病院における看護研究支援を行った。 ・主たる実習施設である国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の管理者、指導者とともに一体的になって学術集会へ参加し、共同・双方向の連携強化や教育連携する取り組みを行った。</p>	<p><b>【年度計画50】</b> 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況</p>	<p>Ⅲ (東が丘事務部) ・国立研究開発法人国立成育医療研究センターとの人事交流では引き続き臨床教授4名、特任教授1名として非常勤講師とともに授業を担当いただいている。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延300名強が利用するなど協働事業は継続して進展している。また、昨年度より実施している実習指導者講習会については、国立病院機構病院や国立研究開発法人傘下の病院から33名に参加いただいている。うち4名は成育医療研究センターから参加の看護師・助産師である。最終発表会には昨年度に引き続き参加いただいた各参加者の上長の方々と更なる関係強化に努めた。 ・国立病院機構とも引き続き密な連携を継続しており、提案もさせていただいているが、残念ながら7年度に成案を得ていない。</p> <p>Ⅳ (立川事務部) ・国立病院機構災害医療センターの役割である災害対応医療従事者育成において、本学部の災害看護学の授業もその一環として位置付けていただき連携を図っている。また、近隣の災害に係る各省庁においても、地域防災や災害対応人材育成において活動する場として本学部での講義や教材作成を協働する連携を図っている。 ・災害医療センターをはじめとする多数の臨地実習施設と、看護学実習連携会議を通して連携を図ってきた。特に連携会議においては昨年度の参加者数を越す90人から参加を頂いた。さらに、災害医療センター、成育医療センター、日本医科大学多摩永山病院などの実習施設連携から講義・演習に協力を得るとともに、指導者の指導スキル向上にもつなげている。 ・主たる実習施設である国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の看護管理者・実習指導者とともに、大学と実習施設との共同・双方向の連携強化や実習における新たな指導方法の取り組みなどの教育連携に関する取り組みを毎年日本看護科学学会交流集会へ報告し、今年度は120名の参加者を得た。広く周知されてきたことと、医学書院看護教育の連載に掲載されるなど広報にもつながっている。 ・災害医療センターや国家公務員共済組合連合会立川病院における看護研究支援を行い、卒後教育における連携を図っている。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>【計画51】（五反田事務部・感染制御学教育研究センター） 大学院研究科における研究の取組を紹介するための公開講座の実施や保健医療機関等からの要請に基づく感染制御実践看護学講座及び感染制御学企業人支援実践講座等を実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。</p> <p>「評価指標」 ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数</p>	<p>Ⅲ （和歌山事務部） ・日赤和歌山医療センターとの連携事業として、和歌山看護実践研究センター主催にて「初心者歓迎！あなたもできる！短時間集中型Wordでサクッと文書作成講座」を実施、日赤和歌山医療センターの看護師11名に参加いただき、PCスキルの修得、PCに関する自信と自己効力感の向上や業務効率の向上につながる研修会を開催した。 ・和歌山看護実践研究センターと日赤和歌山医療センター共催にて、日赤に就職する看護学生対象に「就職前新人看護師への研修会」を実施、就職予定者30名が参加し日赤と協力して指導を行った。 ・日赤和歌山医療センターにおいて開催された看護研究研修会などに講師として教員を派遣し、支援を行った。</p> <p>Ⅳ （五反田事務部） 医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を企画・実施しており、令和6年度は以下のとおり実施した。 日時：令和6年7月6日（土） テーマ：先をみる医療－医療DXとヘルスケアの未来－ プログラム構成は本学研究科修了生による研究発表、教育講演、特別講演とした。 昨年度と同様Zoomでの開催とし、235名の申込者があり、うち190名が当日参加した。アンケート結果も好評であった。</p> <p>Ⅲ （感染制御学教育研究センター） 1. 感染制御実践看護学講座 同センターでは保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、平成22年より「感染制御実践看護学講座」を実施しており、令和6年度に第15回を以下のとおり実施した。 ・期間：令和6年4月19日（金）～10月26日（土） ・受講者数：19名 本講座修了生を対象にフォローアップ研修会「AMR対策について」を令和7年3月14日（金）にZoomにて実施し、78名が受講した。 2. 感染制御学企業人支援実践講座 同センターでは企業等において感染制御に関する業務に携わっている者や医療機器や医薬品等の製造・販売に関する企業を対象に、感染制御学の基礎と最新の情報や医療現場の取組などを学ぶ実践的な講座として平成25年から実施している。令和6年度も募集を行ったが申請者がいなかったため実施しなかった。</p>	<p>【年度計画51】 大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。</p> <p>「評価指標」 ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数</p>	<p>Ⅳ （和歌山事務部） ・日赤和歌山医療センターとの連携事業として、和歌山看護実践研究センター主催にて「初心者歓迎！あなたもできる！短時間集中型Excelでサクッとデータ整理・集計講座」を実施、日赤和歌山医療センター等の看護師9名が参加した。 ・和歌山看護実践研究センターと日赤和歌山医療センター共催にて、日赤に就職する看護学生対象に「就職前新人看護師への研修会」を実施、就職予定者32名が参加し日赤と協力して指導を行った。 ・日赤和歌山医療センターにおいて開催された看護研究研修会などに講師として教員を派遣し、支援を行った。</p> <p>Ⅳ （五反田事務部） ・医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を企画・実施しており、令和7年度は以下のとおり実施した。 日時：令和7年5月31日（土） テーマ：先をみる医療－学びと実践が拓く新たな医療－ プログラム構成は昨年度までと変更し、博士課程修了生1名の研究発表後に、本研究科教員4名による各領域に関する教育講演を行う構成とした。また研究科への入学者の広報をとして公開講座終了後はWeb入試説明会を実施した。</p> <p>Ⅲ （感染制御学教育研究センター） 1. 感染制御実践看護学講座 同センターでは保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、平成22年より「感染制御実践看護学講座」を実施しており、令和7年度に第16回を以下のとおり実施した。 ・期間：令和7年4月18日（金）～10月24日（金） ・受講者数：18名 本講座修了生を対象に第11回フォローアップ研修会を令和7年10月18日（土）に本学で対面で実施し、46名が参加した。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画52】（学長戦略本部、各事務部）</b>            本学を卒業した医療人等の生涯学習の場づくりを支援するため、「ポータルサイト」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で情報交換等が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設し、継続教育の機会を提供する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数</p> <p><b>【計画53】（各事務部、学生支援センター）</b>            医療系の大学で学ぶ学生として社会貢献・社会活動に関する意識の涵養及び学習意欲の向上を図るとともに、地域との交流を深め地域社会の発展に寄与するため、学生のボランティア活動への積極的な参加を奨励する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p>	<p>I            ・学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクトチームにおいて、全学共通の卒業生向けのポータルサイトを開設するため、昨年度は医療栄養学科の卒業生にそのニーズ調査を実施し、令和6年度は看護の分野等においても同様の調査を実施した上で、全学的な卒業生のニーズを踏まえたポータルサイトの具体的な制度設計を進めることとしていたが、学内予算環境が急速に厳しい状況となり、当面、卒業生向けのポータルサイトの設置の検討は中断することとした。            ・今後のポータルサイトの具体的な制度設計の検討については、令和8年度以降の財務状況を踏まえつつ、再開することとする。</p> <p>III            （五反田事務部）            ・医療保健学部看護学科ではHomecoming Dayを開催しており、令和6年度で8回目となった。在校生等との交流会だけでなく、病院や医療センターで活躍している卒業生数名を招き、トークセッションの時間を設け、生涯学習支援講座としての内容も含んでいる。令和6年12月23日に「わたしが会いたかったわたしへ～多様な働き方・生き方を考える」をテーマに実施した。</p> <p>III            （五反田事務部）            ・医療保健学部看護学科では、昨年度設置した「地域健康づくり研究・教育センター」が中心となり、学生と行う社会貢献事業、品川区役所と大学教員との連携・社会貢献事業、地域組織とともに行う活動等、様々な活動を積極的に行った。</p>	<p><b>【年度計画52】</b>            「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数</p> <p><b>【年度計画53】</b>            組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p>	<p>III            ・令和7年度においても、学内予算環境が厳しい状況であり、卒業生向けの全学のポータルサイトの設置の検討は中断したが、令和6年度に東京医療保健大学同窓会組織と連携して企画を進め、手始めに医療栄養学科の卒業生サイトを大学HPに開設し、転職支援や生涯学習に関する情報発信に活用を始めており、令和8年度も同窓会組織と協力し整備に必要な具体的な検討を進めていく。</p> <p>III            （五反田事務部）            ・医療保健学部看護学科ではHomecoming Dayを開催しており、令和7年度で9回目となった。在校生等との交流会だけでなく、病院や医療センターで活躍している卒業生数名を招き、トークセッションの時間を設け、生涯学習支援講座としての内容も含んでいる。令和7年9月19日に「あなたの“なりたい看護職”はここにいるかもしれない—今を見つめ、未来のわたしに出会う日—」をテーマに対面及びZoomで実施した。トークセッションのスピーカーとして訪問看護ステーション、専門予備校、総合病院からの卒業生を招き、学生や教職員との親睦を深めた。</p> <p>V            （五反田事務部）            ・医療保健学部看護学科の地域健康づくり研究・教育センターが中心となり、学生と行う社会貢献事業、品川区役所と大学教員との連携・社会貢献事業、地域組織とともに行う活動等、様々な活動を積極的に行った。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p>	<p>Ⅲ (東が丘事務部) ・学生ボランティアの支援体制は引き続き学生生活委員会及び事務部が窓口となり活動を実施した。 学生ボランティア活動として①目黒消防団活動150名弱、②東京医療センター七夕飾りイベント6名、③目黒区民まつり14名+教員1名、④アロマ石鹸づくり1回実施9名、⑤目黒区連携公開講座年1回2名が参加した。(記述の一部を計画49に移動) (立川事務部) 震災発生後に医療救護に関する支援などを行う立川市消防団機能別分団活動や立川地域の住民がお互いを思いやり、支え合い、安心して暮らすことができる街づくりに資する活動を行う立川市日赤奉仕団活動など、学生の参加と教職員による活動支援を行うなど学生と教職員が一体的、機動的に連携した取組みを行っている。</p> <p>Ⅲ (千葉看護学部) ・「ふなばし健康まつりの情報」「地域交流イベントの情報」を学生に周知して学生がボランティア活動を行えるよう支援し、学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。 参加人数は、ふなばし健康まつり：教職員3名、学生23名、地域交流イベント：教職員38名、学生78名</p> <p>Ⅲ (和歌山事務部) ・日赤和歌山県支部との連携・協力のもと結成した「東京医療保健大学和歌山看護学部赤十字奉仕団」は合計43名の学生が所属し、日赤県支部の活動に参加するなど、活発に活動した。令和6年7月には本学部学生の献血活動に対し、和歌山県から知事感謝状が送られた。 ・和歌山市主催の紀州おどり「ぶんだら節」(38名参加)、和歌山市社会福祉協議会が主催する社協まつり(8名参加)など地域のイベントにも積極的に参加した。また、地域商店街を活性化する目的の「みそのマルシェ」に本学部学友会が出店、イベントを盛り上げた。 ・和歌山市中消防署との共催による多数傷病者訓練を雄湊キャンパスにて実施、学生37名が傷病者役などを行った。また、日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練(学生60名参加)など地域大規模災害訓練にも多くの学生が参加した。</p>	<p>「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p>	<p>Ⅲ (東が丘事務部) ・学生ボランティアの支援体制は引き続き学生生活委員会及び事務部が主たる窓口となり活動を実施した。学生生活支援委員会においてはボランティアが参加するイベントごとに担当委員を配置、学生支援を強化している。 主な学生ボランティア活動として①目黒消防団活動175名、②東京医療センター七夕飾りイベント約30名、③目黒区民まつり23名+教員1名、④アロマ石鹸づくり2回実施16名、⑤目黒区子育て支援イベント4名⑥東京医療センター災害訓練約90名が参加した。 (立川事務部) 震災発生後に医療救護に関する支援などを行う立川市消防団機能別分団活動や立川地域の住民がお互いを思いやり、支え合い、安心して暮らすことができる街づくりに資する活動を行う立川市日赤奉仕団活動など、学生の参加と教職員による活動支援を行うなど学生と教職員が一体的、機動的に連携した取組みを行っている。</p> <p>Ⅲ (和歌山事務部) ・「東京医療保健大学和歌山看護学部赤十字奉仕団」は53名の学生が所属。献血活動、医愛祭での出店、本部研修(東京)など、活発に活動した。 ・和歌山市主催の紀州おどり「ぶんだら節」(30名参加)、和歌山市社会福祉協議会が主催する社協まつり(学生6名、教員1名参加)など地域のイベントにも積極的に参加した。また、地域商店街を活性化する目的の「みそのマルシェ」に本学部学友会が出店。 ・学生2名が教員にサポートのもと、認知症サポーター養成講座(キャラバンメイト)資格を取得。今後は学生への指導も予定しており、大学文化の社会還元と次世代育成に資する取組を行っている。 ・子ども食堂(バラの会主催)は毎月参加し、継続的なボランティアとして多くの学生が参加。 ・日赤和歌山医療センターや労災病院で行われた災害訓練に多くの学生が参加</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画54】（学長戦略本部・総合研究所、研究協力部）</b> 教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究や受託研究の推進及び科学研究費等補助金の申請等により、外部資金を確保する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数</p> <p><b>【計画55】 【計画32の再掲】（国際交流センター、研究協力部、各事務部）</b> 学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受け入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>・令和6年度の共同研究の新規契約件数は6件(令和5年度：4件)、受託研究の新規契約件数は6件(令和5年度：7件)であり、共同研究及び受託研究とも昨年度とほぼ同件数を確保した。 ・また、令和6年度科学研究費等補助金等の申請件数は42件（令和5年度：43件）、採択件数は13件（令和5年度：8件）であり、申請件数は前年度を1件減少、採択件数は前年度から5件増加した。なお、令和7年度は申請件数については、令和6年度42件から、令和7年度60件と大幅に増加した。</p>	<p><b>【年度計画54】</b> 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数</p>	<p>Ⅲ</p> <p>・令和7年度の共同研究の新規契約件数は4件(令和6年度：6件)、受託研究の新規契約件数は4件(令和6年度：6件)であり、共同研究及び受託研究とも昨年度を若干下回った。 ・また令和7年度科学研究費等補助金等の申請件数は60件（令和6年度：42件）、採択件数は13件（令和6年度：13件）であり、申請件数は前年度を大幅に上回り、採択件数は前年度と同数となった。なお、令和8年度の申請件数については、令和7年度60件から、令和8年度途中段階（研究スタート支援は公募期間中）であるが73件と大幅に増加した。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるよう両大学に積極的に働きかける。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況</p>	IV	<p>(国際交流センター、研究協力部)</p> <p>1. 令和6年5月にオーストラリアのグリフィス大学との3年間の大学連携協定を更新した。令和6年9月にグリフィス大学オンライン研修、令和7年3月にはハワイ大学現地研修を実施した。9月のグリフィス大学オンライン研修では、学部生・研究科生・教員16名が参加し、オーストラリアの医療、看護、臨床栄養、医療情報について講義を受けた。実施後アンケートでは100%が、「現地研修に参加できないが、海外の医療に関して学びたいと思っている学生たちにとっては、オンライン海外研修は効果的な学習の機会を提供するもので、今後も継続を望む」と回答している。 ・令和7年3月のハワイ研修に関しては、従来研修で連携していたハワイ大学看護学部やシャミナード大学が学部内再編のために受け入れが困難ということで、ハワイ大学アウトリーチカレッジが実施している2-week New Intensive Cours of English(NICEプログラム)に希望学生を派遣することになった。23名の学生が参加して、2週間の集中英語講座に参加した。宿泊は学生の希望によりハワイ大学の寮あるいはホームステイが選択された。実施後アンケートでは、研修全体に対する満足度は、大変満足71%、まあまあ満足29%を合わせると100%、同じく100%がこの研修を他の学生にも勧めたいと回答し、非常に高評価を得た。</p> <p>IV 2. (国際交流センター、研究協力部) 令和6年度の国際講演会の計画は以下の通り3回の国際講演会をオンライン実施した。 10月22日：「フィンランドはなぜ世界一幸せな国に選ばれ続けるのか」(講師：久末智実 タンペレ大学博士課程在籍中)。11月16日：「多職種間のチームワーク・コミュニケーションを向上させるシミュレーション訓練」(講師：Dr. Lorrie Wong ハワイ大学看護学部教務担当副学部長)。12月10日：「アフリカでの経験から看護師の視点で考える国際保健への貢献とキャリア開発」(講師：坂本琢美 メブラジャパンコンサルタント/長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科) 申込者数117名。 (和歌山事務部) ・近畿圏内に在住の外国人医療従事者(ベトナム)3名と本学部学生12名が参加し交流会を開催した。</p>	<p><b>【年度計画55】</b> 1. 大学間提携大学との連携関係をさらに深めるために、協力的なプロジェクトについて提携大学と検討し、提携内容をさらに充実させる。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度及び協力的なプロジェクトの実施状況 ・国際的な講演会等の開催状況</p>	IV	<p>(国際交流センター・研究協力部)</p> <p>1. 令和7年9月に10日間のグリフィス大学現地研修を実施した。総参加者数は47名であった。引率者は3名であった。事前研修2回、事後研修1回も実施した。現地研修では、学生は全期間大学幹旋の家庭に1名ないしは2名でホームステイした。グリフィス大学での研修は1週間午前中英語の集中授業(英語会話能力別に4レベルに編成した)を受け、午後はキャンパスツアー、病院見学、介護施設見学などに参加した。研修終了後に参加学生を対象に行った参加後アンケートは74%が大変満足、24%がやや満足、2%が普通と回答し、全般的に高い評価を得た。 2. 令和8月3月に2日間のオンラインハワイ研修を行った。研修受け入れ先は、本学が2010年から研修提携を行ってきたホノルル市に位置するシャミナード大学である。参加者は、学部生・研究科22名であった。また、学生交流では、本学学生も積極的に英語で参加した。事後アンケートで大変満足と回答した学生が大半を占めた。シャミナード大学とは、今後も関係をより強固なものにして、今後は現地研修の再開なども検討していきたい。他方、コロナ禍から相当の年数が経過して対面研修を再開できていないことも事実であり、見直しが必要な時期に来ていることも事実である。 3. このため海外研修の見直しに着手し、運営主体についても従来の国際交流センター(専任の事務職員1名体制)から、単位認定権限を持つ総合教育センター(グローバル教育担当の兼任教員2名体制)への移管に着手した。</p> <p>IV 4. 令和7年度の国際講演会は、10月、11月、12月、各月1回で合計3回実施した。 10月22日：「海外で医療職として働くために必要なこと」(講師：佐野愛梨氏、西尾雅子氏) 現在、オーストラリアで働く看護師佐野氏とかつてカナダで長年看護師として働いた西尾氏による講演は、将来海外で働きたいと思っている学生にとって関心が高く、他の回より学部生の参加者が多かった。 11月21日：「ボランティア×医療＝共に生きるということ」(講師：笠原順子氏) JICA海外協力隊看護師として働いたご自身の経験に基づいてお話ししていただいた。 12月10日：「オランダ発ポジティブヘルスと安楽死」(講師：シャボットあかね氏) オランダ在住のシャボット氏よりオランダ人の生活に根差した健康・病気について考え方、安楽死に関する考え方について講義いただいた。活発に質疑応答が行われた(講演会シリーズ申込者数：114名) また、これらの講演会は単発開催であり、学生が単位を修得することができないため、令和8年度は総合教育センターが共通科目として「国際関係論」を開講できるように、体制の見直しに着手した。その一環として、令和7年に日本アジア医療福祉教育研究所との包括協定を行った。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>○医療保健学部看護学科</b> 【計画56-1】 地域貢献事業の展開及び地域活動を通して学ぶプログラムを実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 令和5年まで年間9回（大学体育館5回、八潮4回）の健康づくり事業を継続実施する。 2. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する 3. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年9回（五反田5回、八潮4回）） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年20名の学生実習）</p>	<p>IV 1. 健康づくり事業を大学体育館（対面形式）にて全5回実施した。各回の実施計画および事業運営は学生がグループで分担して行った。参加者は50～90歳代の延べ189名（実人数52名）であった。学生は積極的に参加者と交流し、地域住民の健康や生活状況について理解するとともに、この学びをもとに、学生として、また看護職としてできることについて学びを深めた。</p> <p>IV 2. 「看護の統合実習」にて4年生18名が、「公衆衛生看護学演習Ⅲ」にて3年生20名が、「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」が実施する子育て支援事業（品川宿おばちゃんち「ほっぺ」、ほっと・サロン・にじっこ、北浜こども冒険ひろば、しながわこども冒険ひろば）に参加した。実習・演習において、学生は子育て支援の実際を学ぶとともに、未就学児・小学生との外遊び、保護者および各事業のスタッフとの交流を通じ、地域で子育てする家族の生活や思いについて理解を深めた。</p> <p>IV 3. 地域ボランティアの学生募集については、次のとおり参加している。 (1) 東五反田地域 あいおい夏祭り 学生15名 教員2名 (2) 若年性認知症当事者就労支援ジャムづくりの話し合い 教員2名 (3) 第6回わっと！ つながるみんなのみらい ファーム・エイド東五反田 事前打ち合わせ6回参加（学生1名・教員1名） 当日の参加（学生20名・教員2名） 学会発表：2024年11月9日（土） 第24回 日本早期認知症学会学術大会 一般演題発表 演題名：地域連携と地域共生社会：「わっと！ つながるみんなのみらい ファーム・エイド東五反田」の取り組みと展望 発表演題に対し、研究奨励賞を受賞した。 (4) オレンジフェスタ（品川区認知症啓蒙活動）学生8名・教員1名参加 (5) 品川区健康フェスタ 学生20名・教員2名が、運営会議から関わり参加 これらのボランティア活動をとおして、地域住民からその生活を知り、看護職として何が必要となってくるかを考える機会となった。 4. 地域健康づくり研究・教育センターの活動については、【計画56-3】に記載する。</p>	<p><b>【年度計画56-1】</b> 1. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する 2. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年19名の学生実習）</p>	<p>IV 1. 「看護の統合実習」にて4年生20名が子育て支援事業（品川宿おばちゃんち「ほっぺ」、昭和通りおばちゃんち「わっこ」、ほっと・サロン・にじっこ、北浜こども冒険ひろば、しながわこども冒険ひろば）に参加した。</p> <p>IV 2. 「看護の統合実習」にて4年生20名が、また「公衆衛生看護学演習Ⅲ」にて3年生19名が、NPO法人ふれあいの家—おばちゃんちおよびNPO法人そとぼ—よが実施する子育て支援事業（品川宿おばちゃんち「ほっぺ」、昭和通りおばちゃんち「わっこ」、ほっと・サロン・にじっこ、北浜こども冒険ひろば、しながわこども冒険ひろば）に参加した。実習・演習において、学生は子育て支援の実際を学ぶとともに、未就学児・小学生との外遊び、保護者および各事業のスタッフとの交流を通じ、地域で子育てする家族の生活や思いについて理解を深めた。</p> <p>IV 3. 看護の統合実習と社会貢献 学生は、看護の統合実習「住民とともに活動する保健師の会」において、下記のとおり社会貢献事業に参加した。 1) わっと！ つながるみんなのみらい ファーム・エイド東五反田 事前打ち合わせ6回教員2名参加（内2回は学生20名）、当日の参加（学生20名・教員2名） 2) 東京都エイズ啓発拠点事業「エイズフェス」 事前打ち合わせ・開催準備1日間、当日の参加（学生20名・教員2名） これらのボランティア活動をとおして、地域住民からその生活を知り、看護職として何が必要となってくるかを考える機会となった。</p>		

第3期中期計画	令和6年度実績	令和7年度計画	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分		評価区分		評価区分	評価区分
<p><b>【計画56-2】</b> 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和5年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修の実施状況</p> <p><b>【計画56-3】</b> 全国・東京都・品川区等の各自治体や地域組織・住民と連携協働し、保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を展開し、また、学内外における保健・健康づくりに関する研究・教育の拠点となることを目指す。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ始動する。</p>	<p>I</p> <p>1. ダッカの高齢者介護施設の責任者が9月に来日し、その講演会に参加した。資金および実習受け入れ先の見通した立たず、研修計画の立案は断念した。 本計画は2023年度までとしており、今年度で活動を終了する。</p> <p>IV</p> <p>・地域健康づくり研究・教育センターとして、品川区や地域と連携し活動したり、東京都、エイズ予防財団や日本公衆衛生学会・日本性感感染症学会など広く外部組織とも関係を持ちながら保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を行った。</p>	<p><b>【年度計画56-2】</b> 1. 研修の実施（令和6年度で活動終了） <b>「評価指標」</b> ・令和5年度の研究計画立案時に参加人数の見通しを立てる。</p> <p>・地域健康づくり研究・教育センターとして、地域看護学領域・老年看護学領域の教員を中心に、品川区役所や地域（NTT東日本関東病院・近隣薬局・在宅介護支援センター・小学校）、東京都庁・各区保健所（世田谷区保健所・品川区保健所・目黒区保健所・池袋保健所）、エイズ予防財団・日本性感感染症学会など広く外部組織とも関係を持ちながら保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を行う。</p> <p><b>【年度計画56-3】</b> 地域健康づくり研究・教育センターとして活動する。</p>	<p>I</p> <p>1. ダッカの高齢者介護施設が完成し、12月にメンバーがダッカを訪れ、オープニングセレモニーに参加した。研修計画に関する活動は昨年度で終了しており、今後は先方のニーズを聞きながら連携の可能性を探っていく。</p> <p>IV</p> <p>・地域健康づくり研究・教育センターとして、地域看護学領域・老年看護学領域の教員を中心に、品川区役所や地域（NTT東日本関東病院・近隣薬局・在宅介護支援センター・小学校）、厚生労働省・東京都庁・各区保健所（世田谷区保健所・品川区保健所・目黒区保健所・池袋保健所）、エイズ予防財団・日本性感感染症学会など広く外部組織とも関係を持ちながら保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を行った。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科 ボランティア等)</p> <p>2. 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ・東五反田ファーム・エイド あいおい夏祭、ジャムづくり</p>	<p>1. 品川区との連携 (1)健康大学しながわ(品川区事業) ・地域健康づくり活動グループ支援運営委託 運営会議・連絡協議会 4回/年実施 ・地域活動グループ活動事業評価: 2回/年実施 ・健康大学しながわ健康フェスタの開催(東京医療保健大学五反田キャンパスで2月15日(土)に開催した) (2)品川区総務部総務課 平和・国際担当連携 (3)オレンジフェスタ(品川区認知症啓蒙活動)学生8名参加 (4)しながわ健康プラン21策定 副委員長 教員1名 年4回 会議 (5)品川区フォスタリング機関 里親認定前研修への連携支援(講師派遣等)</p> <p>2. 品川区の地域との連携 (1)東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等 ・第6回わっと! つながるみんなのみらいファーム・エイド 事前打ち合わせ6回参加(学生1名・教員1名) 当日の参加(学生20名・教員2名) ・東五反田あいおい夏祭り 学生15名・教員2名参加 ・東五反田倶楽部ジャムづくり 教員2名参加 (2)八潮地区総合防災訓練 選挙と重なり中止 (3)品川区健康フェスタ 学生20名・教員2名が、運営会議から関わり参加 (4)しながわみんなで想う橙プロジェクト～オレンジフェスタ2024～(品川区認知症啓蒙活動) 学生8名・教員1名参加 (5)品川区 地域第一センター 町会自治会連合会事業 地域共生社会を目指す「地域マナー&amp;防災かるた」の作成と活用カルタ活用方法検討 (6)品川で性教育を考える会 研修会5回参加、うち講師1回実施 (7)品川区フォスタリング機関 里親認定前研修 講師 教員1名</p>	<p>1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科 ボランティア等)</p> <p>2. 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ・東五反田ファーム・エイド あいおい夏祭り、ジャムづくり</p>	<p>IV</p> <p>1. 品川区との連携 ・東京医療保健大学と締結協定を結ぶ品川区と、保健事業をともにに行い、社会貢献としても学生・教員が参加した。 1)「健康大学しながわ」 ・運営・評価支援: 品川区が育成した「健康大学しながわ」の地域健康づくりグループが、区民への健康づくりを行う際の、運営支援・評価支援を行った。 ・連絡協議会・健康フェスタの運営参加: 地域健康づくり研究・教育センターが、健康大学しながわ事務局センター事務局(外部委員:住民とともに活動する保健師の会)とともに、地域健康づくりグループの活動場所の確保・管理、連絡協議会・健康フェスタの運営等を行った。 ・学生派遣: 健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生も参加した。 2)学生団体:スマイルプラス結成と地域活動の開始 2月18日・3月4日・18日上大崎シルバーセンターにて運動実践 各回参加者約10名 2年生地域保健活動演習後に学生の希望があり、結成された。教員がし、品川区社会福祉協議会と連携し、在宅介護支援センター・シルバーセンターとの仲介・指導を行い、上大崎シルバーセンターで活動を開始した。</p> <p>IV</p> <p>2. 品川区内地域との連携 1)8月24日あいおい夏祭り 2)11月2日ファーム・エイド 保健師課程4年生20名が、実習として社会貢献への参加 3)品川で性教育を考える会 品川区医師会 会長と共に、2-3か月に1度、性教育研修会を開催した。 4)新規事業:障害者なんでも相談会 つどいばinスターバックス 開催打ち合わせ5回、実施12月6日、3月7日 参加団体:区内の障害者団体や家族会、品川区精神保健福祉家族会(かもめ会)品川区高次脳機能障害者と家族の会、昭和医科大学 医学部、リハビリテーション科、東京医療保健大学 地域健康づくり研究・教育センター、品川区医師会 五反田リハビリテーション病院、就労移行支援事業所 ジョブサ 家族や友人には話にくいお悩み事やお困り事相談会をスターバックスの協力を得て、ふらっと立ち寄れる相談会を開催した。各回参加者:約35名</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会 内部質保証推進会議
<p>3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業（東京都委託事業）への学生・教員協力 ・青少年施設(中高生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点4T」事業 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業</p> <p>「評価指標」 ・健康大学しながわ評価表の作成 2回/年 ・品川区大崎第一地域センター連携 3回/年以上 ・品川区立第三日野小学校との連携 3回/年以上 ・東五反田ファーム・エイド会議年6回 実施1回/年以上 ・住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/2ヶ月</p>		<p>3. 東京都・都内品川区以外自治体との連携（アドバイザー・講師等） (1) 東京都 行政職員・地域専門職向け青少年エイズ対策事業研修会 講師 (2) 東京都特別区 特別区専門研修 中堅保健師研修会 講師派遣 (2) 東京都・世田谷区健所・品川区保健所・目黒区保健所、エイズ予防財団と共同した、医愛祭での展示によるエイズ・性感染症予防啓発事業 学生15名、教員1名参加</p> <p>4. 他県自治体住民の健康対策支援（分析・アドバイザー等） (1) 高知県須崎市チーム須崎プロジェクト事業 高知県児童虐待死亡事例後のプロジェクト運営支援 教員1名 (2) 横浜市泉区思春期保健事業 事業計画策定支援・地域診断支援・研修会講師 教員1名 (3) 仙台市泉区いのち育むプロジェクト事業 事業計画策定支援・地域診断支援・教育資料作成支援・研修会講師 教員1名 (4) 福島県いわき市いのちを育む教育推進事業 いのちを育む教育推進協議会アドバイザー・講師、事業計画策定支援・地域診断支援・研修会講師 教員1名 (5) 自治体への連携支援（人生を豊かに育むための性・ころ・からだの教育 講師派遣等） 仙台市泉区・福島県福島市・福島県いわき市・千葉県習志野市・千葉県我孫子市・横浜市泉区・高知県須崎市・和歌山県和歌山市</p>	<p>3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業（東京都委託事業）への学生・教員協力 ・青少年施設(中高生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点4T」事業 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業</p> <p>「評価指標」 ・健康大学しながわ評価表の作成 2回/年 ・品川区大崎第一地域センター 連携 3回/年以上 ・品川区立第三日野小学校との連携 3回/年以上 ・東五反田ファーム・エイド会議年6回 実施1回/年以上 ・住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/ 2ヶ月</p>	IV	<p>5) 学生部活動 青少年の性と健康を考え活動する会(2SK会)の活動支援 学生：部員76名 顧問：8名 他活動支援者：地域健康づくり研究・教育センター 外部委員 住民とともに活動する保健師の会 (1) 厚生労働省主催「レッドリボントークライブ」出演 5/31(土)配信イベントに東京医療保健大学 青少年の性と健康を考え活動する会 (2SK会) 3年生・住民とともに活動する保健師の会TBS HIV/エイズ検査普及週間イベントライブに出演した。厚生労働省・TBSとの打ち合わせ、シナリ作成等を支援した。 (2) 4月21日 新入生合宿 講演 新入生に向け、青少年の性と健康を考え活動する会(2SK会)性感染症予防について後援した。学生が講演指導は顧問教員が行った。 (3) 性の健康へ活動について投稿 投稿支援は顧問が行った。東京医療保健大学 青少年の性と健康を考え活動.性の健康 Vol.24 No.3.2025 (4) 9月27・28日 医愛祭 東京都・世田谷・品川・目黒区保健所、エイズ予防財団合同展示の実施 これらにかかる打ち合わせ・荷物搬入の支援を行った。イベント来場者とともにアウェアネスリボンづくり、紙芝居 3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業を全遂行し、そのアドバイス・支援を行った。どのほかにも、東京都・都内品川区以外自治体との連携（アドバイザー・講師等）を行った。 1) 厚生労働省 厚生労働省主催「レッドリボントークライブ」の厚生労働省・TBSとの打ち合わせ、シナリ作成等実施した。 2) 東京都 行政職員・地域専門職向け青少年エイズ対策事業研修会 講師 2) 東京都特別区 ・特別区専門研修 中堅保健師研修会 講師派遣 ・東京都・世田谷区健所・品川区保健所・目黒区保健所、エイズ予防財団と共同した、医愛祭での展示によるエイズ・性感染症予防啓発事業 学生20名、教員1名参加</p> <p>IV 4. 他県自治体住民の健康対策支援（分析・アドバイザー等） (1) 高知県須崎市チーム須崎プロジェクト事業 高知県児童虐待死亡事例後のプロジェクト運営支援 教員1名 (2) 横浜市泉区思春期保健事業 事業計画策定支援・地域診断支援・研修会講師 教員1名 (3) 仙台市泉区いのち育むプロジェクト事業 事業計画策定支援・地域診断支援・教育資料作成支援・研修会講師 教員1名 (4) 福島県いわき市いのちを育む教育推進事業 いのちを育む教育推進協議会アドバイザー・講師、事業計画策定支援・地域診断支援・研修会講師 教員1名 (5) 自治体への連携支援（人生を豊かに育むための性・ころ・からだの教育 講師派遣等） 東京都庁・神奈川県庁・千葉県庁・宮城県庁・静岡県庁・佐賀県庁・仙台市泉区・福島県福島市・福島県いわき市・千葉県習志野市・千葉県我孫子市・横浜市泉区・相模原市・伊豆市・高知県須崎市・和歌山県和歌山市等</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
	<p>5. 中学・高等学校・特別支援学校への連携支援（人生を豊かに育むための性・こころ・からだの教育 講師派遣等） 小学校2校・中学校13校・高等学校1校・特別支援学校3校 教育委員会主催教育者向け講演会3県</p> <p>6. 児童養護施設 職員・児童への連携支援（人生を豊かに育むための性・こころ・からだの教育 講師派遣等） 新宿区・鳥取県・広島県・高知県</p> <p>7. 地域健康づくり研究・教育センター 外部委員(外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会)との連携事業 (1)東京都委託事業への学生・教員協力 年間事業 ・青少年施設(中学生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う 「HIV啓発拠点ふぉー・ていー」事業 42回/年実施 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 80回/年実施 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 学生12名参加 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業の実施 2回/月 ・エイズ・ピア・エデュケーション 都内中学・高等学校10校実施、本校の新入生合宿でも実施、 (2)東京都エイズ・ピア・エデュケーション事業に関するAIDS学会での学会発表 日本AIDS学会学術大会発表 一般演題発表 教員2名参加 (3)「HIV啓発拠点ふぉー・ていー」事業に関する日本性感染症学会でのシンポジウム登壇・一般演題発表 日本性感染症学会 シンポジスト登壇・一般演題発表 教員1名参加 (3)新宿区役所からの委託事業 性感染症普及啓発アウトリーチ型支援の委託事業 ・動く性感染症保健室として、週3日 各4名体制での新宿歌舞伎町ト一横、大久保公園周辺での性感染症予防普及啓発活動 教員2名・職員2名 参加</p> <p>【地域健康づくり研究・教育センター報告】 <a href="https://thcuacjp-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/m-watarai_thcu_ac_jp/EVL40LPn_5BCpXZLSKrfYI1BYDAs-Foge1Y8Aq0QP6LDxg?e=IHgdBL">https://thcuacjp-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/m-watarai_thcu_ac_jp/EVL40LPn_5BCpXZLSKrfYI1BYDAs-Foge1Y8Aq0QP6LDxg?e=IHgdBL</a></p>		<p>IV 5. 中学・高等学校・特別支援学校への連携支援（人生を豊かに育むための性・こころ・からだの教育 講師派遣等） 小学校2校・中学校13校・高等学校1校・特別支援学校3校 教育委員会主催教育者向け講演会3県</p> <p>IV 6. 児童養護施設 職員・児童への連携支援（人生を豊かに育むための性・こころ・からだの教育 講師派遣等） 新宿区・世田谷区・鳥取県・広島県・高知県・佐賀県等</p> <p>7. 地域健康づくり研究・教育センター 外部委員(外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会)との連携事業 (1)東京都委託事業への学生・教員協力 年間事業 ・青少年施設(中学生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う 「HIV啓発拠点ふぉー・ていー」事業 36回/年実施 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 80回/年実施 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 1回/年 学生20名参加 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業の実施 2回/月 ・エイズ・ピア・エデュケーション 都内中学・高等学校10校実施、本校の新入生合宿でも実施 (2)東京都エイズ・ピア・エデュケーション事業に関する日本性感染症学会で学会発表 教員1名参加 (3)「HIV啓発拠点ふぉー・ていー」事業に関する日本性感染症学会でのシンポジウム登壇・一般演題発表 日本性感染症学会 シンポジスト登壇・一般演題発表 教員1名参加 (3)新宿区役所からの委託事業 性感染症普及啓発アウトリーチ型支援の委託事業 3回/週 ・動く性感染症保健室として、週3日 各4名体制での新宿歌舞伎町ト一横、大久保公園周辺での性感染症予防普及啓発活動 教員2名・職員2名 参加</p> <p>【地域健康づくり研究・教育センター年間報告】 <a href="https://thcuacjp-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/m-watarai_thcu_ac_jp/IQDE-gLm0eX2S5TV6Kqw9G-NAZgUeh0vOB6odocnc9C3ZeE?e=PpIJSs">https://thcuacjp-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/m-watarai_thcu_ac_jp/IQDE-gLm0eX2S5TV6Kqw9G-NAZgUeh0vOB6odocnc9C3ZeE?e=PpIJSs</a> password : phn</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>○医療保健学部医療栄養学科</b> 【計画57-1】 地域の社会課題を解決するため、積極的に社会貢献活動を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 教員と学生が共同し、大学近郊でボランティア活動を行う。</p> <p>「評価指標」 ・実施テーマ数：6件/年</p>	<p>III</p> <p>・今年度は16件の社会貢献活動に1年生から4年生の学生、延べ43名が参加した。引き続き、継続して実施する予定である。</p> <p>①学校学習支援ボランティア 品川区立第一日野小学校 2024年4月～9月 ②学校学習支援ボランティア 杉並区立井荻小学校 2024年4月～9月 ③学校学習支援ボランティア 足立区立鹿浜五色桜小学校 2024年4月～9月 ④学校学習支援ボランティア 江戸川区立小岩小学校 2024年4月～9月 ⑤よこすかスポーツコミュニティ（北体育会館）「ゴールデンウィーク健康増進イベント」 骨密度測定およびミニ栄養相談 2024年4月29日 ⑥よこすかスポーツコミュニティ（くりはま花の国）「ゴールデンウィーク健康増進イベント」 骨密度測定およびミニ栄養相談 2024年5月3日 ⑦町田市立忠生第三小学校 ケア環境研究所との食育活動 2024年6月6日 ⑧NPO法人ドナルド・マクドナルド・ハウス「せたがやハウス」付き添い入院をする家族のために提供する夕食メニューの考案、調理 2024年7月18日 ⑨入院中のお子さんに付き添う親御さんを支援（NPO法人キープ・ママ・スマイリング）する「付き添い生活応援パック」の梱包作業 2024年8月26日 ⑩よこすかスポーツコミュニティ（北体育会館）「スポーツの日健康増進イベント」 骨密度測定 2024年10月14日 ⑪せたがや福社區民学会第16回大会 学会におけるボランティア活動 2024年11月9日 ⑫株式会社ケアコム 第12回農園祭 子供向け食育および収穫食材を使った試食提供 2024年11月10日 ⑬NPOキープ・ママ・スマイリング10周年記念パーティーの受付、誘導 2024年11月29日 ⑭教育総合センターメッセイベント「果物から遺伝子を取り出して見よう」2024年12月21日 ⑮神奈川県川崎市宮前区 平老人いこいの家 健康づくり講演会（フレイル、骨粗鬆症予防）および骨密度測定 2025年2月8日 ⑯世田谷区若林小学校体験学習「手の衛生管理」2025年2月19日</p>	<p>【年度計画 57-1】 大学近郊でのボランティア活動を継続する。</p> <p>「評価指標」 ・実施テーマ数：6件/年</p>	<p>IV</p> <p>・今年度は12件の社会貢献活動に1年生から4年生の学生、延べ33名が参加した。引き続き、継続して実施する予定である。</p> <p>①学校教育支援ボランティアの取り組み 稲城市立若葉台小学校 2025年4月～9月 ②学校教育支援ボランティアの取り組み 調布市立和泉小学校 2025年4月～9月 ③よこすかスポーツコミュニティ（くりはま花の国）「ゴールデンウィーク健康増進イベント」2025年5月3日 ④よこすかスポーツコミュニティ（北体育会館）「ゴールデンウィーク健康増進イベント」2025年5月5日 ⑤ケア環境研究所「圃場での農業体験」2025年7月30～31日 ⑥農林水産省関東厚生局東京都拠点「未来へつなぐ食のバトン」2025年8月1日 ⑦よこすかスポーツコミュニティ（北体育会館）「スポーツの日健康増進イベント」2025年10月13日 ⑧せたがや福社區民学会第17回大会 学会におけるボランティア活動 2025年11月9日 ⑨株式会社ケアコム農園祭「子供向け食育および収穫食材を使った試食提供」2025年11月9日 ⑩教育総合センターメッセイベント「果物から遺伝子を取り出して見よう」2025年12月20日 ⑪世田谷区教育総合センターメッセ「食育あそび」2025年12月20日 ⑫群馬県佐波郡玉村町・児童支援団体JOYクラブ「しゃがいも植え付けイベントと食育」2026年3月8日</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画57-2】</b> ㊦ 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和5年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修の実施状況</p> <p><b>○医療保健学部医療情報学科</b> <b>【計画58】</b> ㊦ 令和3年度に締結した本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働でAIoTの医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働でAIoTの医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2件、約60名</p>	III	<p>2024年12月にダッカを訪問し、ほぼ完成したバングラデシュ高齢者介護施設の開院式に出席した。当該施設は2025年4月から運営開始とのことであり、今後われわれが可能な支援活動について相談した。また日本語学校での教育状況を視察し、今後N4資格を取得した卒業生が日本へ外国人技能労働者として、日本の介護施設へ送り出す予定計画についても相談した。主要メンバーの退職に伴い、当学科におけるこのWGの活動は今年度で終了する。</p>	<p><b>【年度計画57-2】</b> 令和6年度で活動終了</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修の実施状況</p> <p><b>【年度計画58】</b> 研究経過に関する合同シンポジウムを行う。その一部を学生にも授業の一部として還元する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2件、約60名</p>	—	<p>IV ・カリキュラム改訂に伴い令和7年度は「企業実習（海外型）」に移行したが、履修者は8名と大幅に増加した。 ・また、学部教育だけでなく大学院教育にも幅を広げ、「ヘルスインフォマティクス特論Ⅱ」の履修者2名も本実習に同行し、延べ10名の学部生・大学院生が彰演秀傳記念病院などの見学を行った。 ・令和7年度は、秀傳医療グループの医療情報担当副院長である劉立氏を医療情報学科の客員教授としてお迎えし、令和8年度から総合教育センターが担当する「国際関係論」においてご講義いただくための準備にも着手した。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>○東が丘看護学部 【計画59-1】㊦ 目黒区との共催で実施しているひがしが丘保健室の年間の総来場者数を増加させる。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. ひがしが丘保健室の開催。 2. ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の発行。 3. 出張型ひがしが丘保健室の開催。</p> <p>「評価指標」 ・ ひがしが丘保健室の年1回開催 ・ ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の年4回の発行 ・ 出張型ひがしが丘保健室の年2回開催 ・ ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：95.0%</p>	<p>III</p> <p>1. 令和6年度も、10月に2回、地域高齢者に健康教育を実施する機会を得た。自立支援教育特論演習で準備と練習を行った後、高度実践公衆衛生看護コースの院生が参加した。1回目は令和6年度10月9日（水）午後に、東根住区センターで行われたダレデモカフェであり、参加者に脳トレ等の健康教育を実施した。参加者は30名で、20分ほどの時間をいただいた。2回目は10月18日（金）午後に八雲住区センターで実施された目黒区西部地区の支えあい・いどばた会議であった。こちらでも高齢者38名に脳トレ等の健康教育を実施した。実施後質問したところ、「楽しかった人」が28名、「難しかった人」が8名、挙手で教えてくださった。質問などもあり、興味を持って地域の人に参加してもらえたと考えられる。</p> <p>2. ひがしが丘保健室の大学での開催については、予算や人的要因等多くの課題があり、実施には至らなかった。</p> <p>3. 学内での対面開催は難しかったものの、昨年度に続き令和6年7月、公衆衛生看護コースM2院生が、健康情報をまとめた「ひがしが丘保健室便り」を発行し、地域住民に189部送付した。目黒区内の施設や老人会での配布が可能であったため、追加で区内施設に71部配布した。また、アンケートは36件（返送20件、オンライン16件）回収率19%であり、昨年度の同様の水準であった（令和5年度回収率：16%）。発行回数としては7回目となり、目黒区で訪問看護ステーションを運営する精神科疾患専門の訪問看護師のインタビューを含んだ貴重な内容であった。アンケート回答者は70代80代が、80%を占めていた。すべての方がお便りの内容、見やすさについて、「よい」または「大変良い」と回答しており（100%）、満足度は高かった。回答は「とても良い」、「良い」、「悪い」、「とても悪い」の4件法で尋ねた。高齢の方々に適した内容と紙面のデザインであったと考えられた。認知症と睡眠に関連があるなど、新しい内容を入れて工夫した。また、区の許可を得て目黒区が実施している物忘れ検診の周知も行った。既によく知られていることのみならず、日常生活で取り入れられる運動や認知症や睡眠の少し新しい知識を学生が丁寧に説明し、地域住民の方々に紹介できたことが良かったのではと思われた。以上のことより、令和6年度計画は概ね達成していると考えられた。お便りで、区の活動を紹介したことで目黒区とも連携することもできた。また地域住民のニーズを分析したことで、次回につなげていきたい。</p>	<p>【年度計画59-1】 1. 出張型のひがしが丘保健室の開催。 2. ひがしが丘保健室の大学での開催。</p> <p>「評価指標」 ・ 出張型のひがしが丘保健室の開催（年1回） ・ ひがしが丘保健室の大学での開催 ・ ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：90.0%</p>	<p>IV</p> <p>小児領域では、アロマ石鹸づくりを実施した。応募による参加者は、30組（AM 13組、PM17組）であった。参加者には入場直後に手洗いを促した。次にイベント開催の趣旨、メンバーを紹介した。イベントのはじめには、参加者を3つのグループに分け、各グループにボランティア3人を配置した。その後、石鹸の歴史、手洗いの大切さを改めて説明した。アロマ石鹸づくりについては、パンフレットに沿って説明した。イベント終了後のアンケート結果では、保護者から「普段なにげなく使っているせっけんを自分たちで楽しく作ることができて、親自身も無心になって楽しませていただきました。特別な石鹸で手洗いもすすんでやってももらえるといいなと思います」「やってみたくてもなかなか自宅ではやらないので手作り・体験できるイベントはとてもうれしいです。難しすぎないので子どもがとても楽しんでました」「普段なにげなく使っているせっけんを自分たちで楽しく作ることができて、親自身も無心になって楽しませていただきました。特別な石鹸で手洗いもすすんでやってもらえるといいなと思います」。子どもからは「せっけんを手作りできてたのしかったです。世界でひとつのせっけんができてうれしかったです」「せっけんを作ったものをほめてもらってうれしかったです」など好評を得た。今後の企画の希望は、「医療に関する体験」「応急処置」「親子でモノづくり」などであった。</p> <p>令和7年度も2回、地域高齢者に健康教育を実施する機会を得た。自立支援教育特論演習で準備と練習を行った後、高度実践公衆衛生看護コースの院生が参加した。1回目は東根住区センターで行われたダレデモカフェであり、参加者に脳トレ等の健康教育を実施した。2回目は八雲住区センターで実施された目黒区西部地区の支えあい・いどばた会議であった。質問などもあり、興味を持って地域の人に参加してもらえたと考えられる。ひがしが丘保健室の大学での開催については、予算や人的要因等多くの課題があり、実施には至らなかった。以上のことより、令和7年度計画は概ね達成していると考えられた。地域住民のニーズを分析したことで、次回につなげていきたい。</p> <p>2026年2月14日（土）に大学院高度実践公衆衛生看護コースのホームカミングデイを開催した。大学として修了生が看護職としての職責を継続して果たせるよう、様々な相談に対応し、燃え尽きおよび離職防止を図るまた修了生同士の情報交換を通して、同じ立場にある・同じ課題に直面している仲間として支えあうというピアサポートを発展させる。在校生と修了生の交流促進を図る、の3つを目的として実施した。在学生6名、卒業生5名の参加があり、就職や卒後のことについて情報交換が行われた。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画59-2】</b> 地域母子保健活動として、妊娠期からの切れ目のない母子への支援をさらに強化する。また、“まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>  1. 実施している“まちの助産室”を、妊娠期のパパママ教室、その後、産後・子育て期へと継続的に実施できる体制へと整備し、さらに、大学院教育との連携として、大学院生も参加する。  2. “まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・中学生に対する思春期性教育の実施状況  ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況  ・まちの助産室：産後クラスの実施状況  ・関連学会での活動の公表状況  ・自治体との連携状況</p>	Ⅲ	<p>1-4. 諸般の事情により、“まちの助産室”開催を中止した。大学院教育（助産コース）では、助産診断・技術学演習、ウィメンズヘルス演習、助産学基礎実習、助産実践力開発実習の各科目において、集団指導、健康教育を学修している。</p>	<p><b>【年度計画59-2】</b>  1. 中学生に対する思春期性教育の実施を継続する。  2. まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施を継続する。  3. まちの助産室：産後クラスの実施を継続する。  4. 大学院生が主体となる運営を設け、教育機会とする。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・中学生に対する思春期性教育の実施状況  ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況  ・まちの助産室：産後クラスの実施状況  ・関連学会での活動の公表状況  ・自治体との連携状況</p>	Ⅲ	<p>1-4. 諸般の事情により、“まちの助産室”開催を中止した。大学院教育（助産コース）では、助産診断・技術学演習、ウィメンズヘルス演習、助産学基礎実習、助産実践力開発実習の各科目において、集団指導、健康教育を学修している。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画59-3】</b> 大学の国際化を進め地域の国際化に寄与する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施する。 2. 海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会を積極的に推進する。 3. 海外の看護系大学と学術交流を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況</p>	IV	<p>1-4. 東が丘看護学部では、4年前から入学生に全員TOEICを受けていただき、年間2回実施し、2回目以降は自主的に受験している。更に2年前から外国人による学生ホールでの「イングリッシュカフェ」を開催し、学部生、大学院生も積極的に参加し学生ホールは英語で賑やかに活気あふれている状況となっている。勿論英語力も向上し、令和6年度全学国際交流委員会主催のハワイ研修には学部生は3名参加した。・3年次生が1名休学し1年間のオーストラリア語留学を経験し、2月に帰国した。視野が広くなり良い体験が出来たと報告あり。</p> <p>・国際看護学Ⅱを選択した学部学生は、外国人の医療へのアクセスに関する実態を調査するため、街頭インタビューの実施、国立国際医療研究センター国際診療部、NTT東日本関東病院国際診療科、外国人のメンタルヘルスを担うクリニックを訪問し、外国人診療の現状について理解を深めた。またモンゴルでの助産師教育に関わったJICA専門家から話を伺い、途上国等における国際貢献のあり方について学びを深めた。各グループの取り組みや学びは、発表会にて履修した学生に共有された。</p> <p>・大学院生27名は、昨年に引き続き国立成育医療研究センターの病院長先生から、肝臓の移植手術の研究開発をし、先端医療の提供をするために、個人の時間を使い、ボランティアの精神で、途上国の肝疾患で病んでいる子供たちを助けるために、年間何度も途上国へ出かけ手術を行い、通常の業務に差し支えないように土日や休みを使用し、病む子供たちを助けている実態を聴き、手術方法の研究プロセスを学ぶと共に、世界中に手術方法を広め、難病の子供たちの命を救っている医師の貴重な話を直接聞き、全員が感動し、看護の役割を改めて考えさせられた。学部学生、大学院生共に国際的に活動している日本人医師の講義から視野が広がり、先進国だけでなく途上国の医療の在り方や医療者に対する関心が大いに高まった。</p> <p>・ハワイでNPとして働いている非常勤講師により、学部生はオンライン授業、大学院生は対面で講義を受けた。米国の保健医療制度の特徴などの講義を受け学生達は高い関心を示した。日本と異なる医療制度等に関心が高まった。質問が多数出て関心の高さを理解できた。</p>	<p><b>【年度計画59-3】</b> 1. 全学委員会と連携し、学生の海外研修の参加募集・PRを積極的に行う。 2. 現地開催・オンラインの双方に学生が円滑に参加できるよう支援する。 3. 海外からの講師の招聘による講演会はFD委員会等と連携し開催する。 4. オンライン海外研修の評価の学会公表により、多文化共存の研鑽に役立てる。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況</p>	<p>IV</p> <p>・東が丘看護学部では、4年前から入学生に全員TOEICを受けていただき、年間2回実施し、2回目以降は自主的に受験している。更に2年前から外国人による学生ホールでの「イングリッシュカフェ」を開催し、学部生、大学院生も積極的に参加し学生ホールは英語で賑やかに活気あふれている状況となっている。</p> <p>・ハワイでNPとして働いている非常勤講師により、オンライン授業で講義を受けた。米国の保健医療制度の特徴などの講義を受け学生達は高い関心を示した。日本と異なる医療制度等に関心が高まった。質問が多数出て関心の高さを理解できた。視野が広くなり良い体験が出来たと報告あり。</p> <p>・国際看護学Ⅱを選択した学部学生は、外国人の医療へのアクセスに関する実態を調査するため、街頭インタビューの実施、国立国際医療研究センター国際診療部、NTT東日本関東病院国際診療科、外国人のメンタルヘルスを担うクリニックを訪問し、外国人診療の現状について理解を深めた。またモンゴルでの助産師教育に関わったJICA専門家から話を伺い、途上国等における国際貢献のあり方について学びを深めた。各グループの取り組みや学びは、発表会にて履修した学生に共有された。</p> <p>・大学院生は個人の時間を使い、ボランティアの精神で、途上国の肝疾患で病んでいる子供たちを助けるために、年間何度も途上国へ出かけ手術を行い、通常の業務に差し支えないように土日や休みを使用し、病む子供たちを助けている実態を聴き、手術方法の研究プロセスを学ぶと共に、世界中に手術方法を広め、難病の子供たちの命を救っている医師の貴重な話を直接聞き、全員が感動し、看護の役割を改めて考えさせられた。学部学生、大学院生共に国際的に活動している日本人医師の講義から視野が広がり、先進国だけでなく途上国の医療の在り方や医療者に対する関心が大いに高まった。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>○立川看護学部</b> 【計画60】㊦ 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保する。</p> <p>「計画達成のための方策」 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保するため、学年担任や全学生に対して積極的にPRを進めていくとともに、参加した学生の研修結果をメール配信するなど、学生が興味関心を引くような情報提供や研修参加者の声を伝えていく。</p> <p>「評価指標」 ・国際交流研修の申し込み状況</p> <p><b>○千葉看護学部・看護学研究科</b> 【計画61-1】㊦ 地域との協働・共生に関する理解を深める。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 千葉看護学部における『地域連携・共生に関する活動方針』を作成し、活動方針に基づく活動が行われているかを評価する。</p> <p>【評価指標】 ・検討会開催回数（3回/年）、検討会参加人数（5人/回）、活動評価結果（1回/年）</p> <p>2. 学生が地域との協働・共生を学ぶ環境を支援する。</p> <p>【評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p>	<p>IV 2024年度の国際交流事業として、オンラインでオーストラリア研修が実施されたが、参加者はいなかった。しかし、現地開催されたハワイ研修では1～3年生計5名が参加した。また、リレー講演会には1～4年次生の学生計6名と教員11名が参加した。</p> <p>III 1. 学部FD活動の一環として定期FD報告会において意見交換を行ったが、『地域連携・共生に関する活動方針』について、地域関連活動WGにて方針案を作成している。今後は、将来構想委員会で、補足・洗練を図っていく。</p> <p>IV 2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業、1) 10月「八木が谷地区社会福祉協議会福祉まつり」、2) 11月「ふなばし健康まつり」、3) 12月「マナフェス12月に」ボランティア案内を行った。各イベントへの参加者は1) 学生11名、教員1名、2) 教職員4名と学生23名、3) 学生39名、ちばもの学生11名、教員3名であった。ふなばし健康まつりでは本学ブースに182名の来場者があった。なお、船橋市保健課主催の「シェフズクッキング 日本クラムチャウダー選手権2連覇のシェフに学ぶ！船橋ネギとホンビノス貝のあったか山海鍋～おうちで簡単シェフの味～」の紹介を掲示を行い船橋市の活動に協力した。</p>	<p>【年度計画60】 国際交流研修の申し込み人数4名をめざす。</p> <p>「評価指標」 ・国際交流研修の申し込み状況</p> <p>【年度計画61-1】 1. WGを設置し、これまでの実績を見直し、次期中期計画に向けた課題の洗い出しを始める。</p> <p>【評価指標】 ・WGによる方針・評価検討会開催回数（2回/年）</p> <p>2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業やボランティア案内などの情報提供を行う。</p> <p>【評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p>	<p>IV 1. 2025年度の国際交流事業として、オーストラリアグリフィス研修が9月5日～14日に開催され、立川看護学部から1年生5名と4年生1名が参加した。</p> <p>IV 地域関連活動WGの今までの活動を見直し、教員の地域貢献活動を促進するHUB機能を強化する方向性を定めて活動した。検討会議は4回実施した。</p> <p>IV 2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会等で実施している以下の①～⑤事業および船橋市のボランティア案内について情報提供を実施し、計84人の学生が参加した。①八木が谷地区社会福祉協議会福祉まつり、②ふなばし健康まつり、③市川市重症心身障害児親の会主催マナフェス、④西海神地区避難所連絡協議会、⑤千代田区男女共同参画センターMTWまつり。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>3. 地域貢献及び地域に本学を理解してもらうために地域交流イベントを開催する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・地域交流イベント参加人数（100人）、参加学生数（100人）、参加教員数（20人）、参加者の満足度（満足度70%以上）</p> <p>4. 学部及び教員が地域のリソースとして活用される仕組みを整え、活用が促進される。</p>	<p>III 3. a) 地域交流イベント2024を3月9日に開催し287名の参加者があった。教職員38名、学部学生78名、大学院生7名が参加した。来場者アンケート結果では満足とほぼ満足が88%であった。 ・b-1) 船橋市まつりへの参加、および地域交流イベントの広報活動により船橋市地域包括ケア推進課、保健福祉課、船橋市社会福祉協議会、船橋市自治会、船橋市民生児童委員協議などと顔の見える関係構築ができた。</p> <p>III 4. a. 令和6年度も、領域や教員個々の活動として地域のリソースとして活用されており、次年度は、教員がリソースとして活用される仕組みは、この状況を把握することから着手することとしていく。 b. 高校からの模擬授業の依頼3件および高校からの依頼による大学見学を1件実施した。いずれも参加者の満足度は高かった。</p>	<p>3. 地域貢献活動を促進するため教員の地域貢献活動を集約、公開し、希望者が参加・協働できる仕組みをつくる。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・地域貢献活動を集約する仕組みの検討回数（1回/年）、年度末活動報告会での実績報告（1回/年）</p> <p>4. a. 前年度の評価に基づき、教員がリソースとして地域で活用されることを促す。 b. 学生募集部・事務部と協働し、高校訪問に模擬授業等のニーズを把握し、適切な教員を派遣する。</p>	<p>IV 6月に各領域等で予定されている地域貢献関連活動についての調査を実施し、その結果を集約して共有した。また、教員の地域貢献活動についての情報交換の場として専用Teamsを開設し、本取り組みについては、年度末の活動報告会で報告した。</p> <p>IV a. 4領域が地域貢献活動を実施しており、学校における一次救命処置に関する教員向けの校内研修会の講師や、住民よりHUG実施の希望の意見が挙がる等、地域でリソースとして教員が活用されている状況を把握し、共有した。 地域からの講師派遣依頼の令和7年度の実績は次の通りである。 ◎千葉県看護協会からの依頼 ・「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」講師（1件） ・「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」講師（2件） ・「看護教員養成課程」講師（1件） ・「レポートの書き方」講師（1件） ・「看護研究基礎編研修」講師（1件） ◎JCHOからの依頼 ・「保健師助産師看護師実習指導者講習会」講師（6件） ・「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」講師（3件） ・「認定看護管理者教育課程サードレベル」講師（1件） ・JCHO船橋中央病院での看護研究支援：JCHO船橋中央病院の看護師を対象に、看護研究支援を月1回の頻度で実施（1件） ・JCHO東京山手メディカルセンターでの看護研究支援：JCHO東京山手メディカルセンターの看護師を対象に、看護研究研修を実施（1件） ◎千葉県からの委託、依頼 ・千葉県看護職員研修事業「実習指導者講習会」：臨床実習指導者への実習指導に関する研修、42名受講41名修了、受講者へのアンケートにおいて8割以上から満足度が得られた。 ・千葉県看護職員研修事業「実習指導者講習会（特定分野7日間コース）」：特定分野で働く臨床実習指導者への実習指導に関する研修、36名受講35名修了、受講者へのアンケートにおいて8割以上から満足度が得られた。 ・千葉県保健活動業務研究発表会助言者（1件） ◎大学が企画した地域住民・専門職者を対象とした勉強会等 ・実習協議会：14の実習施設31名の実習担当者が参加し、実習に関するディスカッションを千葉看護学部教員（27名参加）と行った。実習に関連する動画を作成し事前に実習担当者様に見てもらったことで活発なディスカッションができ、参加いただいた実習施設から好評であった。 ・東京医療保健大学千葉看護学部公開講座「上手な高齢者介護との向き合い方」、参加人数約30名</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【評価指標】</b> ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1件/年）、JCHOや関連施設からの講師依頼件数（1件/年）、勉強会等の実施回数（1回/年）、各参加者の満足度（70%以上）</p> <p><b>【計画61-2】</b> 学際的な共同研究や海外研修等を促進し、成果を発表する。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b> 1. 複数領域、学外者及び学際的な共同研究への参加を促進し、成果を発表する。 <b>【評価指標】</b> ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数</p> <p>2. 海外研修や学外研修への参加を促進し、その成果について共有する。</p>	IV	<p>1. 学部活動報告会を実施し、ポスター展示を通じて研究・学内外活動について総合的に情報共有した。 ・複数領域の共同研究：課題件数15件、学会発表7件、論文発表1本 ・学外者との共同研究：課題件数44件、学会発表20件、論文発表8件 ・学際的な共同研究：課題件数11件、学会発表6件</p> <p>2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨し、9月オーストラリアグリフィス大学/3月ハワイ研修の準備・運営を以下の通り、行った。 ・9月：オンライン研修の募集、事前準備・研修中のサポートを実施した（全学参加者：16人） ・3月：現地研修の募集、事前準備のサポートを実施した（千葉看護学部4名参加） 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。 b. 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。</p>	<p><b>【評価指標】</b> ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1件/年）、JCHOや関連施設からの講師依頼件数（1件/年）、勉強会等の実施回数（1回/年）、各参加者の満足度（70%以上）</p> <p><b>【年度計画61-2】</b> 1. 年度末の学部活動報告会等で情報共有を行う。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数</p> <p>2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨する。国際交流委員会が把握するイベントや単発の研修会等の情報発信を行う。 b. 年度末の学部活動報告会で情報共有を行う。</p>	IV	<p>・東京医療保健大学千葉看護学研究科・和歌山看護学研究科共催公開講座 79名参加 満足度91% ・JCHO東京山手メディカルセンター実習指導者を対象とした授業見学会：計2回開催し、参加者数は第1回5名、第2回4名であった。基礎看護援助方法Ⅳのシミュレーション演習を見学していただき、実習前に学生が準備科目でどのようなことをどのように学んでいるのかを実際に見ていただいた。見学後の自由記載アンケートでは、「学生の習熟度に合わせた教員の関わり」や「学生の気づきを引き出すような関わりについて学びになった」、「学生自身の力で気づき主体的に学ぶことができることが良くわかり、学生の考えを引き出す関わりを実習でもしていきたい」等、高評価を得た。</p> <p>◎その他 ・千葉県看護研究学会研究相談員（1件） ・西海神小避難所運営連絡協議会講師（1件） ・産業看護職養成研修を行う講師の養成を目的とした講座の担当講師（1件） ・千葉県八千代市立萱田南小学校第1回校内職員研修会「心肺蘇生、応急手当基本編」講師（1件）、教職員20名が参加 ・千葉県八千代市立萱田南小学校第2回校内職員研修会「心肺蘇生、応急手当応用編」講師（1件）、教職員20名参加 ・茨城県筑西市養護教諭会研修会 講師（1件）、養護教諭35名が参加 b. 教員を出張派遣する高校からの模擬授業依頼は1件、大学へ来校しての大学見学は1校あった。いずれも参加者の満足度は高かった。</p> <p>1. 学部活動報告会を実施し、研究・学内外活動について総合的に情報共有した。 ・複数領域の共同研究：課題件数23件、学会発表8件、論文発表4本 ・学外者との共同研究：課題件数42件、学会発表26件、論文発表14件 ・学際的な共同研究：課題件数8件、学会発表6件、論文発表2件</p> <p>2. a. 本学主催の海外研修への参加や、国際交流委員会が把握している各種イベント・研修会の情報について、ガイダンスやメールを通じて周知した。また、学生からの個別相談には適宜対応し、参加を積極的に推奨した。 b. 年度末の学部活動報告会で情報共有を行った。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【評価指標】</b> ・研修参加者（教員1名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/FD報告会）、成果共有による評価</p> <p><b>【計画61-3】</b> ㊦ 千葉看護学研究科として住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 地域交流イベントにおいて、学生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。</p> <p><b>【評価指標】</b> 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数</p> <p><b>【計画61-4】</b> ㊦ 千葉看護学研究科の教職員の教育力を開発する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、多文化共存を視野に入れた研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b> 大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数</p>	<p>IV</p> <p>・令和5年度までの「地域看護機能推進演習」の成果とその発表（学会や地域交流イベント）などの活動をもとに、令和6年度本学紀要に投稿した(in print)。 ・3月9日開催の地域交流イベントにおいて、2024年度履修者7名により口演形式で成果を発表し、会場参加者（船橋市民）と意見交換を行った。</p> <p>III</p> <p>・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。 ・研究科FDとして、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざして、必修科目「ヘルス・グローカリゼーション」を生かした動画教材の作成に取り組んだ。令和7年度は、動画教材の配信後に、アンケートを実施する計画である。</p>	<p><b>【評価指標】</b> ・研修参加者（教員1名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/FD報告会）、成果共有による評価</p> <p><b>【年度計画61-3】</b> 成果を活動報告として、FD研修等で一つ以上発表する。</p> <p><b>【評価指標】</b> 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数</p> <p><b>【年度計画61-4】</b> 前年度作成した多文化共存のための動画を用いたFD研修を実施する。</p> <p><b>【評価指標】</b> FD研修の参加人数</p>	<p>IV</p> <p>夏季FD研修で、「看護機能推進特論」について、授業内容を紹介し、教員間で意見交換を行った。</p> <p>IV</p> <p>8月26日の夏季FD研修で、「多文化理解・多文化共存の課題と展望」というテーマで研修を企画し、教員間で意見交換を行った。教員の参加人数は32名であり、参加率97.0%であった。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>○和歌山看護学部・看護学研究科</b></p> <p><b>【計画62-1】</b> 臨地実習での多職種連携場面での学びの促進を図るとともに、多職種との交流によりチーム医療を実践できる医療人を育成する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学内教育においては臨地からの多職種の教育参加により、臨地での意図的な多職種連携の体験する機会をつくる。 2. 多職種・他大学学生とチーム医療・他職種連携の体験を共有する機会を設ける。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況</p> <p><b>【計画62-2】</b> 地域の教育機関、保健医療福祉施設、自治体等との共同体制の下、医療・福祉・保健面における社会貢献を積極的に推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 本学部の社会貢献の実践・可能性を発信し、異分野の大学との共同研究を行うとともに地域のニーズに応じた社会貢献を実践する。 2. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に参画する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・情報発信と社会貢献の実践数、ICTを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況</p>	IV	<p>1. チーム医療・多職種連携についてはすべての分野の実習計画に反映できている。また幅広い実習施設で多職種連携を経験している。</p> <p>2. 近隣大学との教育連携については、コンソーシアムの単位互換制度に参画した。</p> <p>3. 和歌山市中消防局と連携し、学内で多数傷病者対応訓練を実施した。参加学生は37名（4年生2、2年生12、1年生23名であった。）</p> <p>IV</p> <p>1. 情報発信と社会貢献の実践数；SNSでの発信数 投稿47、ストーリー27であった。</p> <p>2. ICTを活用した会議数；9割以上の会議がZOOMを利用したハイブリットであった。</p> <p>3. コンソーシアム和歌山の学生共同研究採択は1件であった。</p> <p>4. 県看護協会 ファーストレベル1回、臨床指導者講習会2回、新人看護師の講習会1回、新人看護師の技術研修会1回の計5回講師を受諾した。</p> <p>5. 和歌山市と共同で公開講座を開催した。</p> <p>6. ボランティア参加数は延べ295名であった。</p>	<p><b>【年度計画62-1】</b> 1. チーム医療・多職種連携に関して実習計画に反映し、実施する。 2. 近隣大学との教育連携を呼びかける。 3. 可能な領域でチーム医療・多職種連携に関する体験の機会を設ける。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況</p> <p><b>【年度計画62-2】</b> 1. 本学部の活動を発信する。 2. ICTを活用した会議の効果的な活用を行う。 3. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に応募し、1件以上採択を得る。 4. 県看護協会の委員会活動、研修会講師等で積極的に支援する。 5. 市と共催の公開講座の定期的開催を継続する。 6. 県・市・地域からのボランティア参加者</p> <p><b>【評価指標】</b> ・情報発信と社会貢献の実践数、ICTを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 ・委員会数、研修会講師受諾数、公開講座開催有無、ボランティア参加数 ・公的委員就任状況</p>	IV	<p>1. チーム医療・多職種連携についてはすべての分野の実習計画に反映できている。また幅広い実習施設で多職種連携を経験している。</p> <p>2. 近隣大学との教育連携については、コンソーシアムの単位互換制度に参画した。</p> <p>3. 和歌山市中消防局と連携し、学内でトリアージ訓練を実施した。参加学生は34名（3年生5名、2年生13名、1年生15名）であった。医愛祭でも理学療法士・包括支援センターとボランティアサークルの学生が連携し、まちの保健室などを実施した。また、教員が継続して参加している認知症カフェに学生も参加し、OT・看護師と学生で家族介護者の話を聴いたり創作活動を行った。</p> <p>IV</p> <p>1. 情報発信と社会貢献の実践数；SNSでの発信数 投稿69、ストーリー23であった。</p> <p>2. ほぼ全ての会議がZOOMを利用したハイブリットであるが、対面の良さを重視する会議も増えてきている。</p> <p>3. コンソーシアム和歌山の大学等地域貢献事業（共同プロジェクト研究）に採択された。</p> <p>4. 県看護協会において、副会長、教育委員長等4名が役員に就任している。また、エクセル講習、保健師研修、実習指導講習、訪問看護基礎研修等の講師を務めた。</p> <p>5. 医愛祭に併せて、公開講座を開催し、29人の市民が参加した。</p> <p>6. ボランティア参加数は延べ177名であった。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>○助産学専攻科</b> 【計画63】㊦ キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 学生が地域貢献できる学修環境の実現。 2. 連携・共生の在り方を学ぶ。 3. 大学キャンパス内の地域活動の貢献とともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備する。 4. 医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。</p> <p>「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回／年</p> <p><b>○和歌山助産学専攻科</b> 【計画64】㊦ 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。</p> <p>「計画達成のための方策」 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、医療情報学科の教授を講師に迎え、あらゆるICTを駆使し遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。</p> <p>「評価指標」 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況</p>	III	<p>1. 活動の広報：企業参加の集会や日本母性衛生学会学術集会等で産後ケアのシンポジウムを開催し、大学として設置している産後ケア活動のアピールができた。このような活動を助産師基礎教育の中に取り込み、教授活動している。また、助産学専攻科の助産学実習にも産後ケアや地域活動の授業や演習を取り入れ、産後ケアの学内および品川区の地域活動にも実習として地域参加させている。 2. 母子支援に関するシンポジウム内容の投稿を学会誌に投稿ができ、これも助産学専攻科の授業・演習・実習に取入れ教授活動している。 3. 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、外来機能などへの拡大の内容を産後ケア研究センターに実習させ体験させることができている。将来の地域活動の教育を図れている。 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回／年 助産実習1週間ずつ、20名全員が実習に行けている。 ・育児クラスとして品川区在住の母子（父親含む）を1・2か月の母子、3・4か月の母子を対象に約10名ずつ3回企画・運営し貢献できた。</p> <p>IV</p> <p>・令和6年度は学生9名の内8名の履修登録があり、聴講を希望し、全員受講した。実習とのバッティングする学生もあったが、録画を視聴する事で全員遠隔診療技術の実際を学ぶ機会となり臨床の場で活用出来る基礎を習得した、その事で地域の医療を考える礎となる事が期待出来る。</p>	<p>【年度計画63】 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型など、外来機能の活用を図る。</p> <p>「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回／年</p> <p>【年度計画64】 ガイダンスで「遠隔診療技術の基礎」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修又は聴講する。</p> <p>「評価指標」 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況</p>	III	<p>1. 活動の広報：日本母性衛生学会学術集会等で産後ケアのシンポジウムを開催し、大学として設置している産後ケア活動のアピールができた。このような活動を助産師基礎教育の中に取り込み、教授活動している。また、助産学専攻科の助産学実習にも産後ケアや地域活動の授業や演習を取り入れ、産後ケアの学内および品川区の地域活動にも実習として参加させている。 2. 母子支援に関するシンポジウム内容の投稿を学会誌に投稿ができ、これも助産学専攻科の授業・演習・実習に取入れ教授活動している。 3. 日帰り型、訪問型、電話相談や通所型、外来機能などへの拡大の検討を行っている。助産学専攻科の学生は産後ケア研究センターで実習することで体験でき、将来の地域活動の教育を図れている。 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 1～2回／年 助産実習1週間ずつ、19名全員が実習に行けている。 ・育児クラスとして品川区在住の母子（父親含む）を1・2か月の母子、3・4か月の母子を対象に約10名ずつ3回企画・運営し貢献できた。</p> <p>IV</p> <p>・和歌山県では、出産施設の閉鎖による集約化等が進み、実習においてもその影響は出ている。そのことを解決するためにも「遠隔診療技術の基礎」は今後益々必要であり、ガイダンスで説明した。 ・医療情報学科の教授を講師に迎え、本学の特徴と和歌山県の医療状況を鑑み医療問題（母子及びその家族、地域の特徴）を理解し、今後のICT技術を生かす事の必要性を学ぶことができた。受講生は専攻科生10名全員であった。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議																																
<p><b>○感染制御学教育研究センター</b> 【計画65】㊦ 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を継続する。</p> <p>「計画達成のための方策」 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。</p> <p>「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数</p> <p><b>○産後ケア研究センター</b> 【計画66】㊦ 大学キャンパス内外の地域活動に貢献するとともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備するとともに、医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 産前産後ケア事業〔助産師による専門的支援の実施（訪問型）〕の推進。 2. 品川区役所や産科医療機関との連携強化事業の強化（情報交換など）を図る。</p> <p>「評価指標」 ・日帰り型 190件／年→280件／年への増加 ・訪問型 200件／年→280件／年への増</p>	III	<p>・「感染制御実践看護学講座」では募集人数20名に対し20名の申請者があり、受講試験の結果19名を合格とした。19名は所定の課程を修了し、「感染制御実践看護師」の資格を取得した。 ・「感染制御学企業人支援講座」については例年どおり募集を行ったが、応募者がなかった。 ・「感染制御実践看護学講座」「感染制御学企業人支援講座」の内容の検討及び需要数について今後検討していく。</p>	<p>【年度計画65】 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。</p> <p>「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数</p>	III	<p>・「感染制御実践看護学講座」では募集人数20名に対し18名の申請者があり、受講試験の結果18名を合格とした。18名は所定の課程を修了し、「感染制御実践看護師」の資格を取得した。 ・「感染制御学企業人支援講座」については今後のプログラムの検討中であり、募集を行わなかった。 ・「感染制御実践看護学講座」「感染制御学企業人支援講座」の内容の検討及び需要数について今後検討していく。</p>																																		
	IV	<p>1. 活動の広報：企業参加の集会や日本母性衛生学会学術集会等で産後ケアのシンポジウムを開催し、大学として設置している産後ケア活動のアピールができた。今後も学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2. 母子支援に関するシンポジウム内容の投稿を学会誌に投稿ができた。 3. 令和6年4月より、日帰り型・訪問型が各1回であったものが5回まで使用可となったため、準備はしていたが件数が大幅に増加して従事者の確保や訪問バックや自転車などの必要物品の補充等、調整・整備を行った。</p> <p>評価指標 年度別の実施件数</p> <table border="1" data-bbox="549 1696 1142 1801"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日帰り型</td> <td>259</td> <td>525</td> <td>162</td> <td>228</td> <td>231</td> <td>107</td> <td>330</td> </tr> <tr> <td>訪問型</td> <td>304</td> <td>344</td> <td>127</td> <td>194</td> <td>228</td> <td>240</td> <td>773</td> </tr> <tr> <td>電話相談</td> <td>316</td> <td>639</td> <td>925</td> <td>367</td> <td>376</td> <td>288</td> <td>493</td> </tr> </tbody> </table>	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	日帰り型	259	525	162	228	231	107	330	訪問型	304	344	127	194	228	240	773	電話相談	316	639	925	367	376	288	493	<p>【年度計画66】 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型など、外来機能の活用を図る。</p> <p>「評価指標」 ・日帰り型 190件／年→280件／年への増加 ・訪問型 200件／年→280件／年への増</p>	IV	<p>1. 活動の広報：日本母性衛生学会学術集会において、シンポジストとして、大学産後ケア研究センターにおける産後ケア事業の実際をテーマに講演した。また、第8回日本助産診断実践学会は当大学が会場で、大学として設置している産後ケア活動をアピールする機会となった。今後も学会や市民講座等で広報活動を継続していく。 2. 母子支援に関するテーマで、シンポジストとして参加し、情報交換に努めた。 3. 令和6年4月から日帰り型・訪問型の利用回数増加に伴い、前年度から従事者の確保や必要物品の補充等により、今年度は対応することができた。次年度は仮庁舎から本庁舎への移転のため、活動に支障がないよう準備している。</p>		
年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024																																
日帰り型	259	525	162	228	231	107	330																																
訪問型	304	344	127	194	228	240	773																																
電話相談	316	639	925	367	376	288	493																																